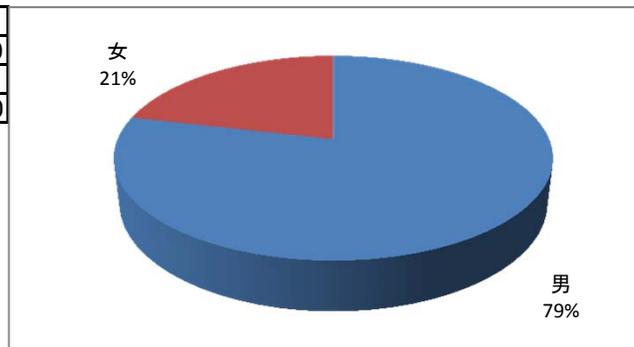


アンケート集計

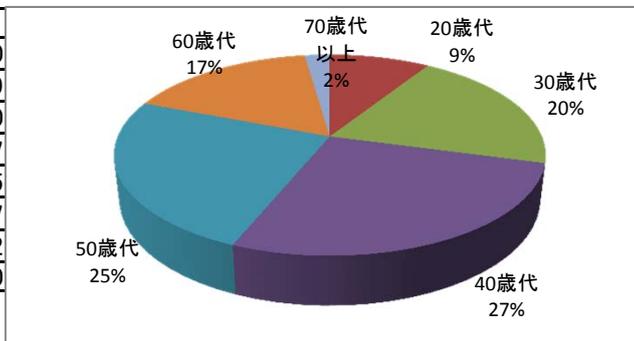
Q1.性別

	回答数	%
男	70	79
女	19	21
計	89	100



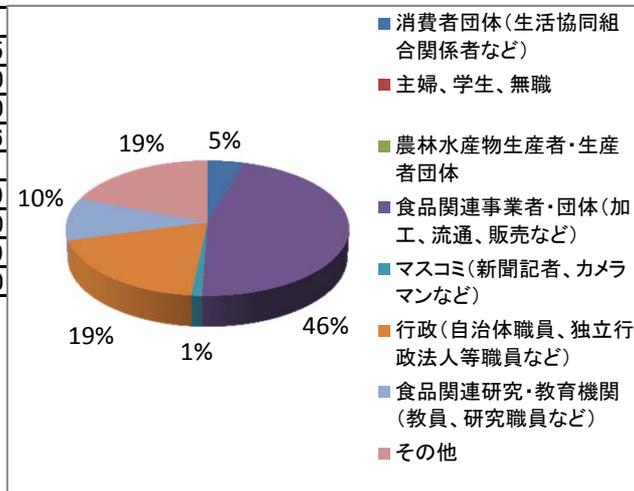
Q2.年齢

	回答数	%
20歳未満	0	0
20歳代	8	9
30歳代	18	20
40歳代	24	27
50歳代	22	25
60歳代	15	17
70歳代以上	2	2
計	89	100



Q3.職業

	回答数	%
消費者団体(生活協同組合関係者など)	4	5
主婦、学生、無職	0	0
農林水産物生産者・生産者団体	0	0
食品関連事業者・団体(加工、流通、販売など)	41	46
マスコミ(新聞記者、カメラマンなど)	1	1
行政(自治体職員、独立行政法人等職員など)	17	19
食品関連研究・教育機関(教員、研究職員など)	9	10
その他	17	19
計	89	100

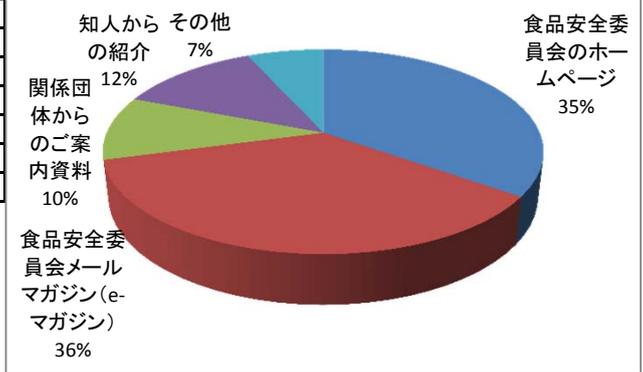


・その他の回答

- 農薬メーカー
- 安全性試験受託機関
- 化学工業事業者
- 化学品製造メーカー
- 化学品メーカー
- 化学メーカー
- 環境コンサルタント、分析業者
- 研究機関(食品以外の)
- 食品用容器包装業界の協議会
- 分析機器メーカー
- 包装材メーカー
- メーカー

Q4.本日のセミナー開催をどこでお知りになりましたか？

	回答数	%
食品安全委員会のホームページ	31	35
食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	32	36
関係団体からのご案内資料	9	10
知人からの紹介	11	12
その他	6	7
計	89	100

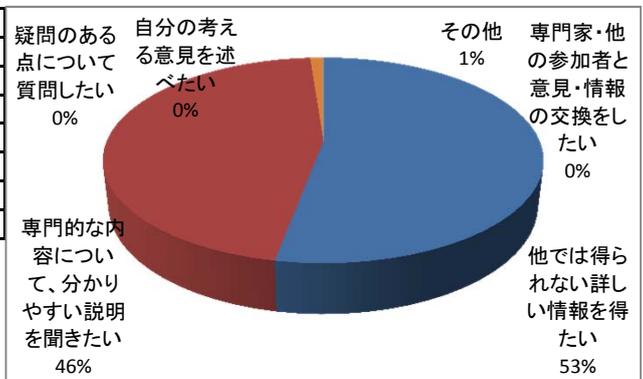


その他の回答

農林水産省メールマガジン  
 省内メール  
 食品安全委員会からのメール  
 FOO COM NET  
 関係者からの情報による  
 専門委員から

Q5.本日のセミナーに参加された目的はどのようなものですか？

	回答数	%
他では得られない詳しい情報を得たい	45	53
専門的な内容について、分かりやすい説明を聞きたい	39	46
疑問のある点について質問したい	0	0
自分の考える意見を述べたい	0	0
専門家・他の参加者と意見・情報の交換をしたい	0	0
その他	1	1
計	85	100

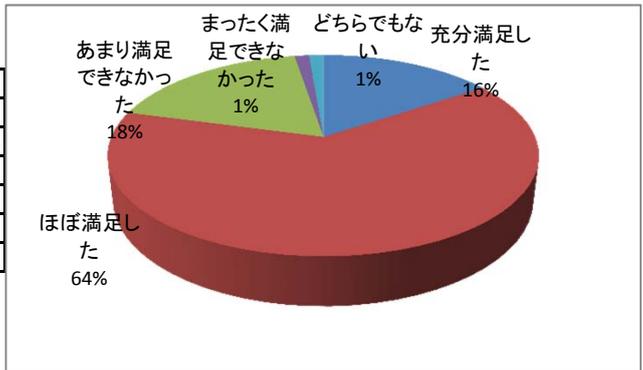


その他の回答

当局の感想、意図を知りたい

Q6.上の質問(Q5)でお答えいただいた目的に対して、本日のセミナーはどの程度満足できるものでしたか？

	回答数	%
充分満足した	12	16
ほぼ満足した	49	64
あまり満足できなかった	14	18
まったく満足できなかった	1	1
どちらでもない	1	1
計	77	100



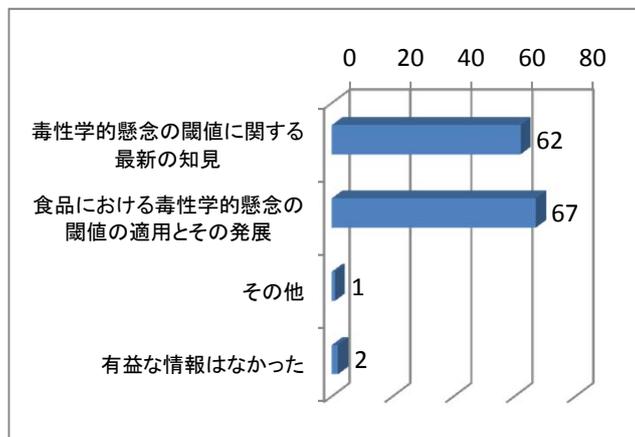
Q7.本日のセミナーで満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

TTCについて予備知識が全くなかったのについていくのが大変だった。理解するのに時間がかかった  
 科学的検証の説明をもう少し増やしてほしい  
 時間が足りない  
 事前にテキストをもらって分析してから参加したかった  
 少々難しすぎました  
 スピードが速いことと、通訳内容が理解できなかった  
 スライドの表示法が良くない  
 専門的すぎました。もう少し知識が必要  
 当局の意図が全く分からなかった  
 内容が盛り沢山で話が速く、理解が追いつかなかった  
 内容に比して時間が短い  
 日本における適用可能性について情報が欲しかった  
 農業関連の説明が駆け足でよく分からなかった  
 早口で聞きづらかった  
 ペースが速く内容を理解しきれなかった

Q8.本日のセミナーでは、有益な情報が得られましたでしょうか？

	回答数
毒性学的懸念の閾値に関する最新の知見	62
食品における毒性学的懸念の閾値の適用とその発展	67
その他	1
有益な情報はなかった	2
計	132

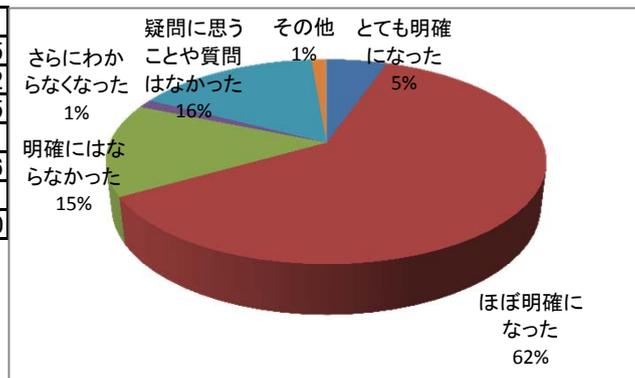
有益な情報がなかった回答  
 難しい  
 基礎が分かってないと理解できないのかもしれない



Q9.本日のセミナーに参加される前に疑問に思っておられたことや質問したいことは、このセミナーで明確になりましたか？

	回答数	%
とても明確になった	4	5
ほぼ明確になった	46	62
明確にはならなかった	11	15
さらにわからなくなった	1	1
疑問に思ふことや質問はなかった	12	16
その他	1	1
計	75	100

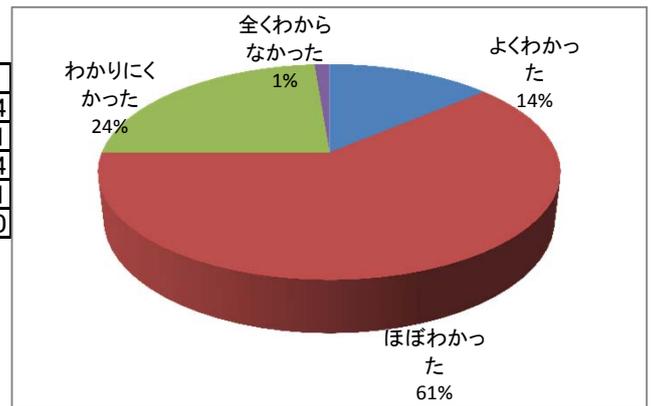
その他の回答  
 まだ理解できないところがある



Q10.本日のセミナーの内容について、それぞれあてはまるところを○で囲んでください。

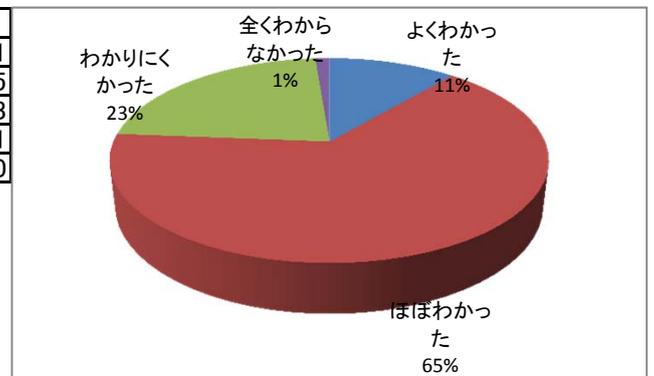
①毒性学的懸念の閾値に関する最新の知見について理解できましたか

	回答数	%
よくわかった	11	14
ほぼわかった	49	61
わかりにくかった	19	24
全くわからなかった	1	1
計	80	100



②食品における毒性学的懸念の閾値の適用とその発展について理解できましたか

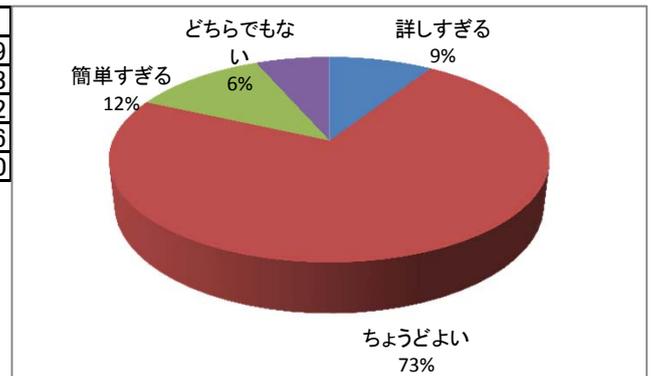
	回答数	%
よくわかった	9	11
ほぼわかった	52	65
わかりにくかった	18	23
全くわからなかった	1	1
計	80	100



Q11.本日のセミナーの進め方について伺います。セミナー全体を通じて感じた印象についてお聞かせください。

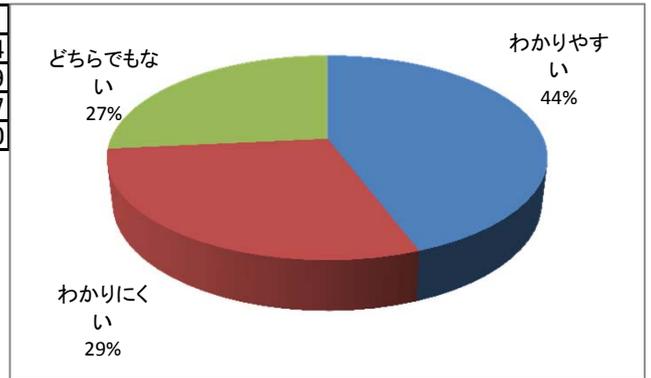
a. 説明の詳しさ

	回答数	%
詳しくすぎる	7	9
ちょうどよい	56	73
簡単すぎる	9	12
どちらでもない	5	6
計	77	100



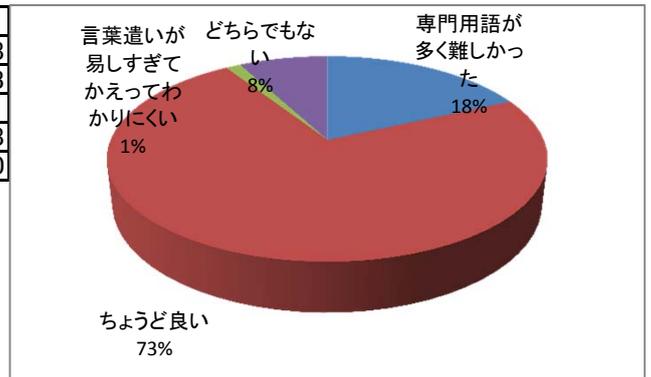
b. 説明資料のわかりやすさ

	回答数	%
わかりやすい	35	44
わかりにくい	23	29
どちらでもない	21	27
計	79	100



c. 専門用語の使い方

	回答数	%
専門用語が多く難しかった	14	18
ちょうど良い	56	73
言葉遣いが易しすぎてかえってわかりにくい	1	1
どちらでもない	6	8
計	77	100

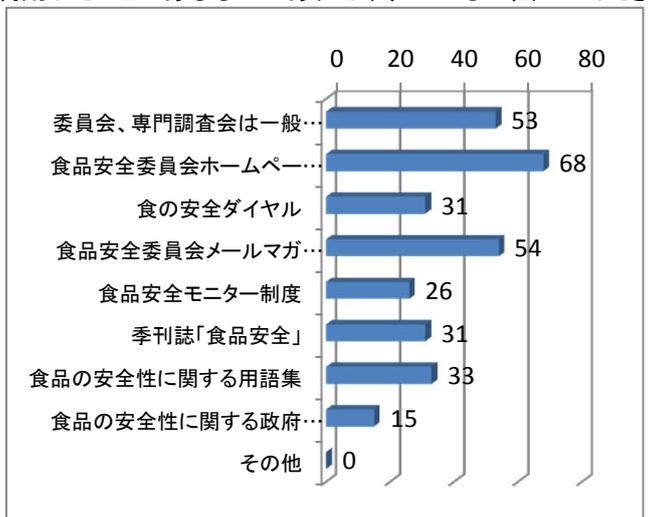


d. その他、進め方でお気づきの点

①のプレゼンは内容が多すぎるのもっとゆっくり聞いてみたいと思った。FDA,EFSAだけでなく、FSCのポジションを聞いたかった。FDA、EFSAの食品安全に関する承認システムは理解できたが日本では今後どうされるのか時間に対して情報量が多すぎる気がします。進みが速すぎます。  
 時間に余裕がない  
 資料、画面共に文字が小さすぎ  
 スライドが多く、内容が多かったのでスピードが速すぎるように感じた  
 スライド量が多かったのもう少し時間が長いほうがよかった  
 とばす資料があるとついていきにくい  
 プレゼンテーションの時間が足りなかった

Q12.以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のもの、あるいは利用したことのあるものがあれば、すべて○で囲んでください

	回答数
委員会、専門調査会は一般の人にも傍聴が可能なこと	53
食品安全委員会ホームページ ( <a href="http://www.fsc.go.jp">http://www.fsc.go.jp</a> )	68
食の安全ダイヤル	31
食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	54
食品安全モニター制度	26
季刊誌「食品安全」	31
食品の安全性に関する用語集	33
食品の安全性に関する政府広報	15
その他	0
計	311



Q13.食品の安全性を確保していく観点から、今後の食品安全委員会セミナーで取り上げて欲しいテーマについてお聞かせください

アクリルアミド等調理や加工の工程で生成する有害化学物質について。ナノマテリアルの安全性について  
機能性食品の安全性(過剰摂取、不純物)  
香料評価と国際整合性  
香料や添加物利用についてのセミナー  
厚労省の食品衛生法にある食品添加物とTTCとの関連性について。現在のJAS法のポジティブリスト使用をネガティブリストにした場合のリスク評価に与える影響  
今回のTTCを実践できるために専門家(企業のリスク評価担当者等)に向けた詳しいセミナーがあるとよい。機能性食品の安全性に関する考え方や評価方法。  
混合物のリスクアセスメント  
食品中のナノマテリアル放射能のリスクアセスメント  
食品添加物の安全性審査における13週間経口動物(ラット)試験のデータの読み方についてのセミナーをしてほしい  
食品と微生物について(特に食品を通じて危害を及ぼす微生物)  
食品表示のヒエラルキー(FSANZ)の概念と運用  
食品用の容器包装に関しても、世界動向、日本の状況を詳細説明してほしい  
毒性参照値について。肝毒性評価の国際動向  
日本の食品衛生法はどのようになるのか  
農薬の急性さんしょう用量(ARTD)について  
評価結果の情報伝達とマスコミ、委員会とマスコミの人のディベート! セミナー方式で公開

Q14.最後に、全体を通してのご意見、ご要望、ご感想がありましたらお聞かせください。

諸外国(米、欧)の実情は理解できました。日本はどうするのか不明です  
全体的には何が問題になるのかがTTCを介して分かった。FDAとEFSA,JFCFAの立場が理解できた  
同時通訳、日本語訳資料がついていたのが、とても理解の助けになりました。事務局の方々の対応も良かったです。こういったセミナーがあれば、また勉強に来たいと思います  
よく復習します  
両人のお話を直接聞け有益であった